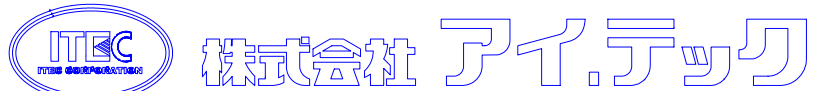


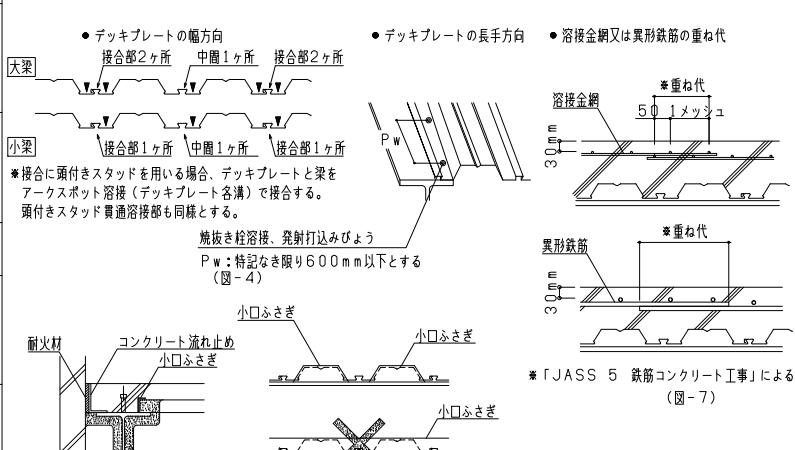
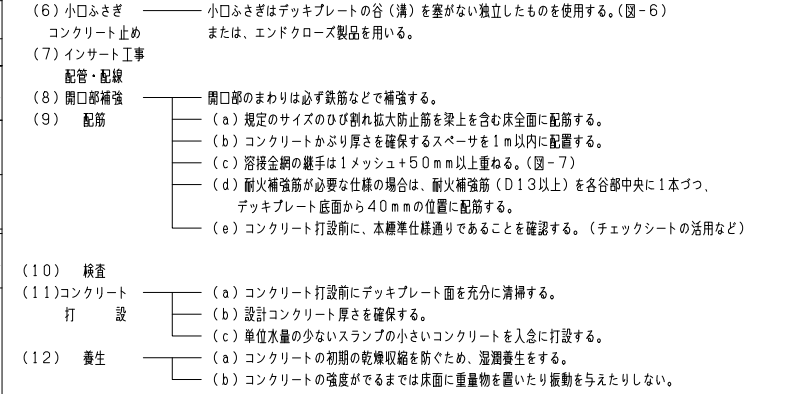
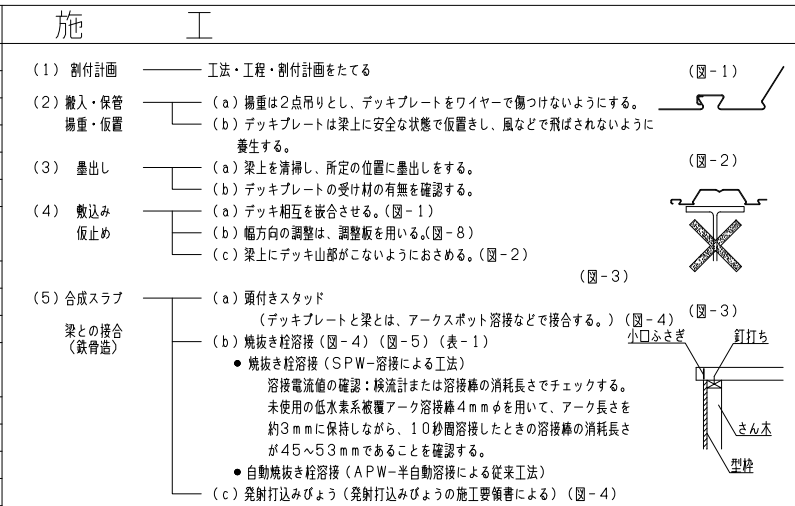
アイ.テックSデッキ 合成スラブ設計・施工標準仕様書（新仕様）

本仕様書に定める事項は、下記に準拠するものとする。
(独)建築研究所監修 「デッキプレート床構造設計・施工標準-2018」
(社)日本建築学会編 「各種合成構造設計指針・同解説」
合成スラブ工業会編 「合成スラブの設計・施工マニュアル」
アイ・テックSデッキ 「カタログ」「耐火認定書」

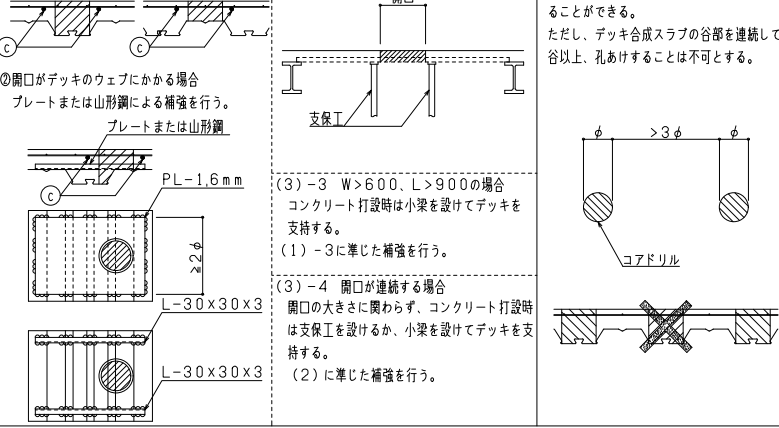
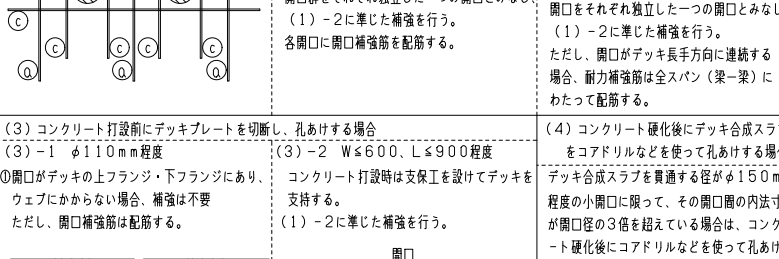
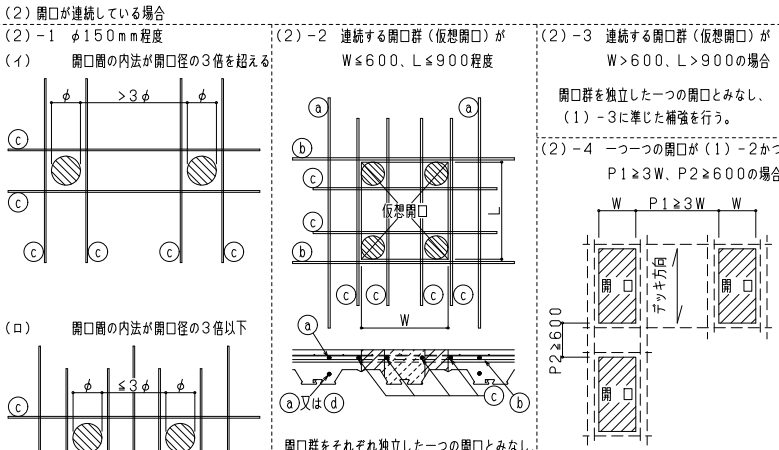
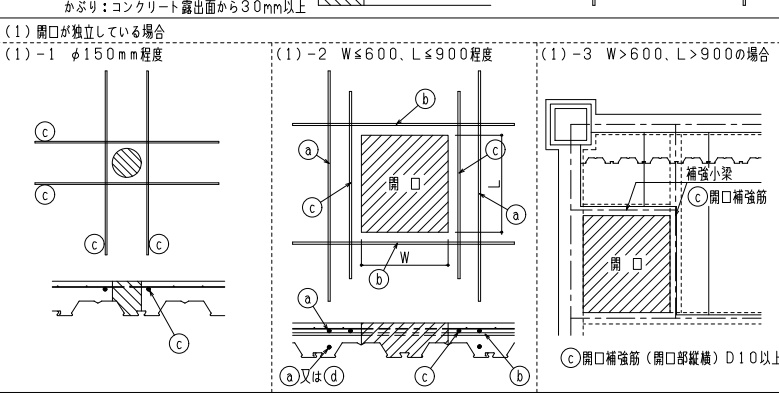
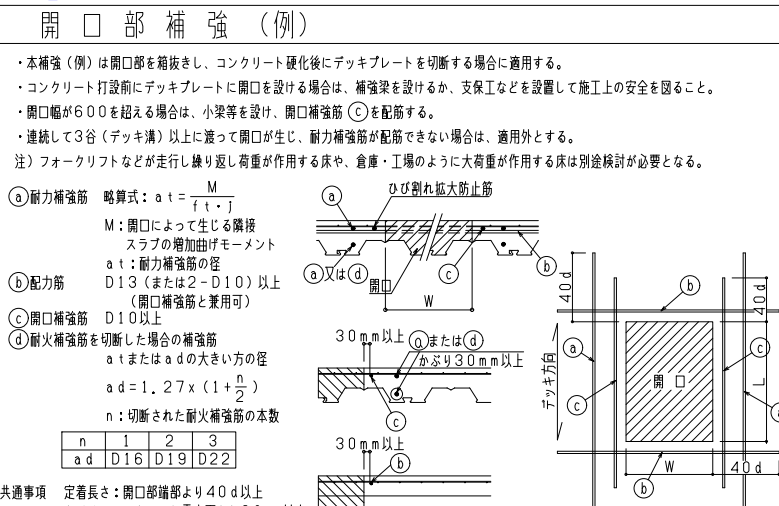
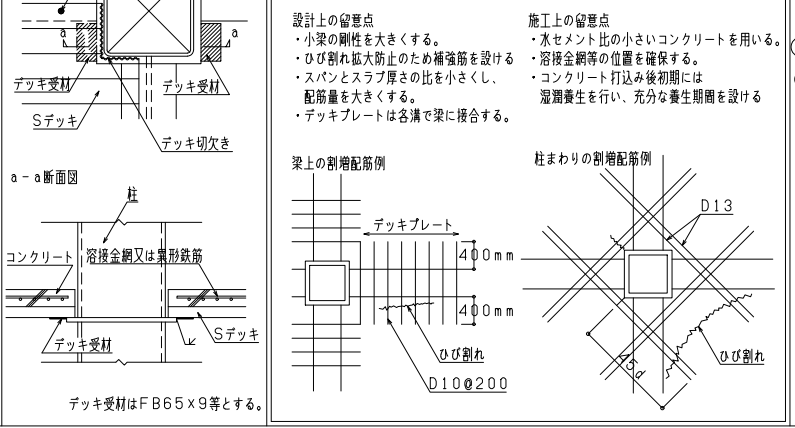
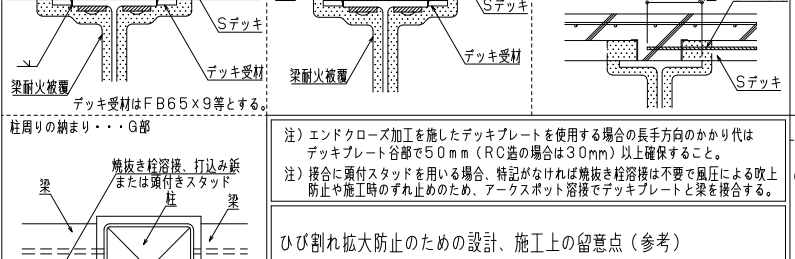
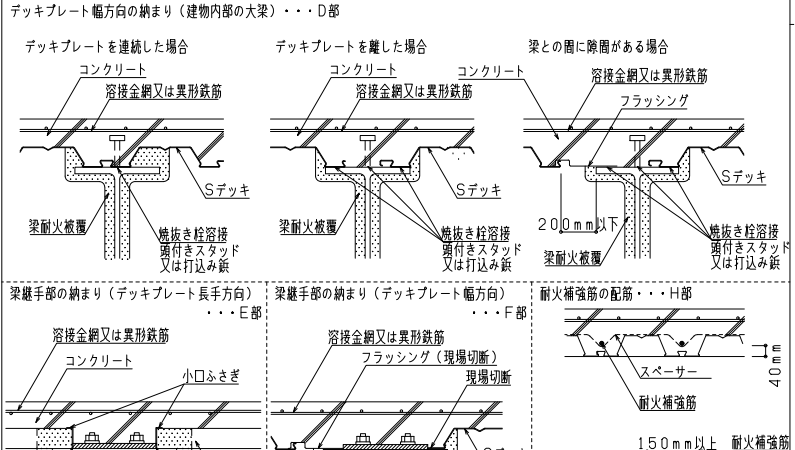
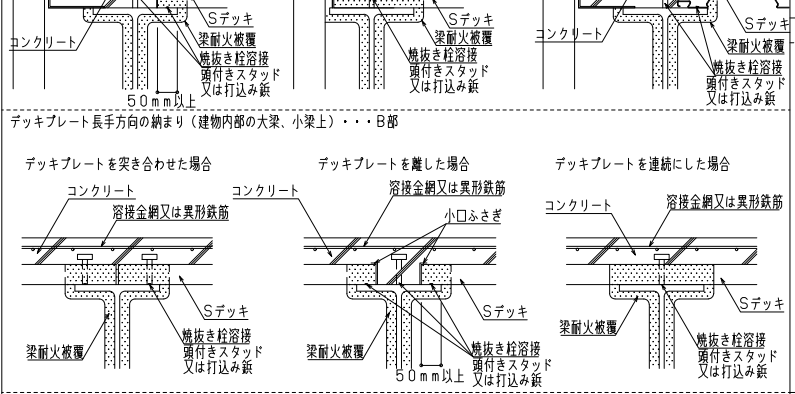
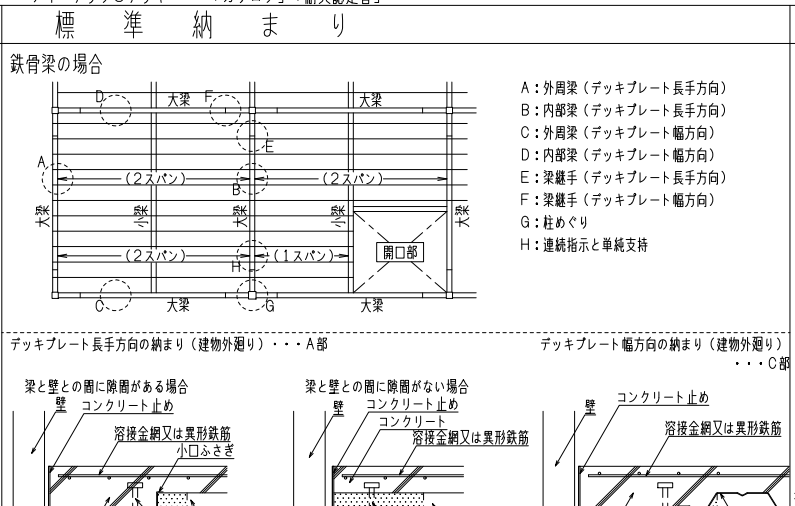
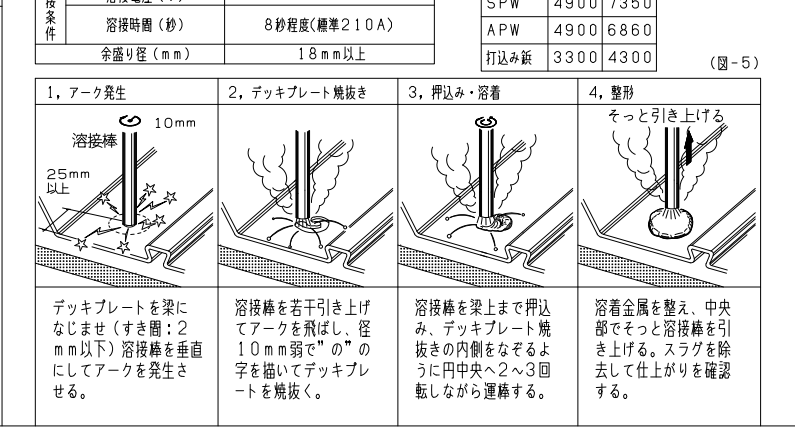


設 計		材 料	
合成スラブ用 デッキプレート	山高	□50	□75
	板厚	□1.2	□1.6
コンクリート	表面処理	□黒皮	□カラー
	種類	JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP1TG, SDP2, SDP2G	□Z12 □Z27 □その他()
ひび割れ拡大 防止筋	種類	□普通	□軽量1種 □軽量2種
	設計基準強度	□18N/mm ² □21N/mm ² □24N/mm ² □その他()	
接 合	厚さ	□70 □80 □85 □90 □95 □100	
	(デッキ山)	□その他()	
溶接金網	(JIS G 3551)	□φ6-150×150	□φ6-100×100
	(JIS G 3551)	□CD6-150×150	□CD6-100×100
異形鉄筋	(JIS G 3112)	□D10-200×200	□その他()
	(JIS G 3117)		
中固支保工	□有	□無	

耐 火 構 造		材 料	
□床1時間耐火 □床2時間耐火 □指定なし			
デッキプレート	耐火時間	耐火認定番号	許容積載荷重算定式 (N/m ²)
S50	1時間	□FP060FL-0184	8000X(2.7/L) ² -DL
	2時間	□FP120FL-0225	9800X(2.7/L) ² -DL
S75	1時間	□FP060FL-0211-1	8305X(3.0/L) ² -DL
	2時間	□FP120FL-0229	8310X(3.6/L) ² -DL
S75 高荷重	1時間	□FP120FL-0234	8450X(3.2/L) ² -DL
	2時間	□FP120FL-0233-1	7850X(3.6/L) ² -DL
S75 高荷重	1時間	□FP120FL-0185	15150X(3.2/L) ² -DL
	2時間	□FP120FL-0192	14545X(3.2/L) ² -DL



溶接方法		溶接機	
溶接機	溶接機	溶接機	溶接機
	溶接機	溶接機	溶接機
溶接機	溶接機	溶接機	溶接機
	溶接機	溶接機	溶接機



※1 : コンクリート厚さが表中の数値を超える場合、超えた分の荷重は積載荷重として算出する。
※2 : 支持梁との接合を示す。中固梁との接合は耐火認定の仕様による。
※3 : Lは梁中心間距離 (m) を示す。
※4 : DLは表の耐火算定用デッキ合成スラブ自重 (N/m²) による。
※5 : ひび割れ拡大防止筋は表中の数値以上のものとし、鉄筋量はコンクリート厚さに対する鉄筋比0.2%以上とする。
※6 : 耐火補強筋 (D13以上) は各溝中央部に1本ずつ、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンにわたって配筋する。

1) : 許容積載荷重が常温時の計算によって決まる場合があるため、耐火仕様と常温時の算定結果の小さい方を許容積載荷重とする。
2) : 許容積載荷重とは建築基準法施行令第85条の積載荷重と床・天井などの仕上げ荷重を加えたものを示す。
3) : 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上の連続的な小梁などによってほぼ等間隔に支持されたものとする。
4) : ひび割れ拡大防止筋は原則としてスラブ上端から30mmの位置に配筋する。
5) : 梁に1.2または3時間耐火性能が要求される場合は、それに応じた耐火保護層を梁に行う。
6) : スパンが大きい場合やコンクリートが厚い場合、コンクリート打設時に中固支保工が必要になるため、計算等により許容スパンを確認する。
7) : 耐火認定条件に適合しない場合は、吹付ロックウール等の耐火認定に促す。

ひび割れ拡大防止のための設計、施工上の留意点 (参考)

設計上の留意点
・小梁の剛性を大きくする。
・ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。
・スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
・デッキプレートは各溝に梁に接合する。

施工上の留意点
・水セメント比の小さいコンクリートを用いる。
・溶接金網等の位置を確保する。
・コンクリート打込み後初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間を設ける。

開口部の留意点
・開口部は開口部を箱抜きし、コンクリート硬化後にデッキプレートを切断する場合に適用する。
・コンクリート打設前にデッキプレートに開口部を設ける場合は、補強筋を設けるか、支保工などを設置して施工上の安全を図ること。
・開口幅が600を超える場合は、小梁等を設け、開口部補強筋 (C) を配筋する。
・連続して3谷 (デッキ溝) 以上に達して開口部が生じ、耐力補強筋が配筋できない場合は、適用外とする。
注) フォークリフトなどが走行し繰り返し荷重が作用する床や、倉庫・工場のように大荷重が作用する床は別途検討が必要となる。

開口部補強筋 (例)
A: 外周梁 (デッキプレート長手方向)
B: 内部梁 (デッキプレート長手方向)
C: 外周梁 (デッキプレート幅方向)
D: 内部梁 (デッキプレート幅方向)
E: 梁継手 (デッキプレート長手方向)
F: 梁継手 (デッキプレート幅方向)
G: 柱めぐり
H: 連続指示と単純支持